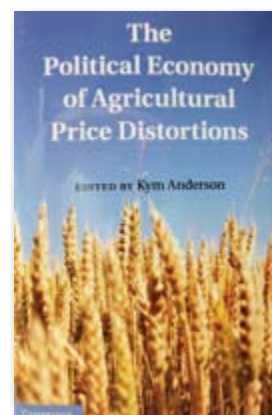


# 『The Political Economy of Agricultural Price Distortions』

Kym Anderson 編

農業・農村領域主任研究官 福田 竜一



『The Political Economy of Agricultural Price Distortions』

編者／Kym Anderson  
出版年／2010年10月  
発行所／Cambridge University Press

「ライスプディング（お米のプリン）」という料理をご存知でしょうか？欧米や東南アジアの一部ではポピュラーな料理（デザート）ですが、日本ではあまり馴染みがないかもしれません。材料はどのご家庭にもある米、牛乳、砂糖などです。作り方はとても簡単で、米に牛乳と砂糖、バターを入れて混ぜて、あとはオーブンで焼くだけです。

さて、実はこのライスプディングの材料である米、牛乳、砂糖は途上国と先進国の双方において名目支援率（NRA：Nominal Rate of Assistanes）が最も高い上位3つの農産物でもあるのです。NRAとは完全競争で成り立つ市場価格を現実の価格がどの程度上回っているか（あるいは下回っているか）を示す比率のことです。ある農産物のNRAがプラスであれば、それだけ生産促進的な政策が実施されている、あるいは国などによって保護されている農産物だといえます。逆にマイナスであればそれだけ生産抑制的な政策が実施されていると考えられます。なおNRAがゼロならば、完全な競争でその農産物の価格が形成されていることになります。

世界銀行では、各国の農業への生産促進的あるいは抑制的な政策等によって、農産物の市場価格がどの程度ゆがめられているのかを示す指標、すなわち農業の「市場わい曲度」指標のデータベース（Distortions to Agricultural Incentives）を構築しました。このデータベースは、先進国と途上国を含む世界主要75カ国を対象とし、1国平均にして11農産品目のNRA等のデータを約50年間に渡って収録しています。そのデータの分析の結果の一部として、2000～04年の間には途上国、先進国（高所得国）の双方において米、牛乳、砂糖はNRAが最も高い上位3品目であることが明らかとなったのです。

一般的に農業の市場わい曲的な政策にはさまざまな問題点があるとされています。その1つとして、市場わい曲的な政策がこれまで長期的かつ世界的に実施されてきたため、適切な農産物価格形成を通じた途上国の農業の発展が阻害され、貧困を助長してきたことがあります。世界の貧困層の大半は、今もなお多くが途上国の農村部に滞留しています。また都市部の貧困層も農業に見切りをつけて農村から都市へと流入した人々が多くいます。つまり農村と都市の双方の貧困削減のためには、農業の適切な発展が不可欠であり、そのためには各国の農政改革が必

要なのです。

それではなぜ、各国はわい曲的な政策を実施するのでしょうか？そのような問題を対象とするのが、本書のタイトルにある政治経済学（Political Economy）です。ここでいう政治経済学とは、政治家や官僚、農民や消費者、あるいは利益団体などの様々なアクター（主体）が、既存の選挙制度や統治制度を前提として、政治的にどのように行動して、互いにどのように影響しあうのかを定式化し、その結果としてどのような経済的帰結が生じるのかを分析する学問です。本書は、理論的研究が近年著しく進んでいる政治経済学に基づき、新たに構築されたこのデータベースを用いて、農業における市場わい曲政策を実証的に分析した結果をまとめたものです。

本書によるその分析結果のごく一部を簡単に紹介しておきます。まず農業のNRAは、国レベルでみると1人当たり所得が高いほど、また農業の比較優位性が低い国ほど高まる傾向があります。また時間と共に1国の経済発展が1人あたりの所得を高め、農業の比較優位性は低まる傾向があるため、1国の農業のNRAは時間の経過と共に高まる傾向もあります。

さらに本書では、比較政治学の視点から民主主義の「多様性」が農業保護政策に与える影響にも言及されています。例えば、国の政体が民主制に移行した場合、農業保護のレベルが上昇することを見出しています。さらに同じ民主制でもその制度的な違い、つまり小選挙区制と比例代表制の違いや、議員内閣制と大統領制の違いなどについて、それぞれどちらの方が農業保護政策を施す傾向が強いのかといった比較政治学的な視点にたった実証的な分析もなされています。

なお本書にはヨーロッパの農業保護政策の歴史や、アメリカの農業政策の決定要因の分析、移行経済諸国における農業のわい曲的な政策の現状など、定性的な分析も収められており、それだけを読んでも興味深いと言えます。ちなみに本データベースに関しては、世界銀行から別の書籍も数冊刊行されていますので、そちらもあわせて参照してください。